

2025_0310「勝山浮島灯台の怪（動画）」日々の理科 3868号

お茶の水女子大学 サイエンス&エデュケーション研究所 田中 千尋

内房（房総半島の東京湾側）の勝山海岸沖に「浮島」という離島があります。周囲 800m 足らずの小さな島ですが、最高標高点が 60m もあり、かなり遠くからでもよく見えます。無人島ですが、島には「浮島神社」があり、祭事の日には渡し舟が出るそうです。フェリー乗り場の「浜金谷港」からも、この浮島が見えました。浮島の名の通り、島は海面から浮いて見えました。蜃気楼の一種「浮島現象」です。しかし、これは「怪現象」ではなく、よく見られることです。問題は、動画の最後に映っている灯台の灯火です。

浮島にはかつて「勝浦浮島灯台」という灯台がありました。鋸南町（きょなんまち）のホームページの説明にはこのように書かれています。

浮島灯台は 1962 年 11 月 30 日の設置で、2010 年 12 月 1 日に 48 年間の役割を終え廃止されました。浮島灯台は、52 年 6 月のダイナ台風で、漁港に帰る際に進路を誤る船が続出した教訓から、「灯台を設置してほしい」という要望が地元から出され、10 年後の 62 年 11 月に完成したものです。直径 2 メートル、高さ 14 メートルで、明かりは 5 秒ごとに点滅し、船舶の道標となってきました。現在は撤去されています。

撤去された灯台のはずですが、動画には明らかに島の山頂部に閃光が映っています。ところが「5 秒ごとに点滅」が合っていません。灯台にはそれぞれ「灯式」という光り方の規則があって、この動画に映っている灯台は「30 秒に一回の白色閃光」でした。私は地図を見て、この怪現象の謎が解けました。浜金谷港—浮島の直線のほぼ延長上に「洲崎灯台（すのさきとうだい）」があります。館山市の南にあり、東京湾と太平洋を隔てる、重要な灯台です。この灯台は海面から 45m の高台にあり、更に灯式も「30 秒に一回の白色閃光」で、まさに私が見た灯火に一致します。コレですね！

(2025 年 2 月下旬／千葉県浜金谷港)

